

<大会開催報告>

初年次教育学会 第14回大会 開催報告

藤田哲也

法政大学

皆様も覚えておられると思いますが、2020年度の初年次教育学会第13回大会は、当初は沖縄国際大学を会場として対面で開催する予定だったのが、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、要旨集の発行による大会開催へと変更いたしました。年度初めの4月、大会での自由研究発表の受付開始の時期に感染拡大の状況が深刻化し、対面での開催を断念せざるを得なかったのですが、当時はオンラインで授業や会議をするということ自体がまだ一般的でなく、会期まで半年しか残されていないという状況ではオンラインでの大会開催準備に踏み切ることも困難でした。結果として、「大会要旨集を発行し、自由研究発表原稿の掲載をもって正式な発表と見なす」という苦渋の決断をいたしました。大会を中止したのでは、会員の皆様の研究成果発表の機会を保障できなくなるという観点での決断でしたが、せっかくのご発表に対して十分な議論を行うこともできず、会員の皆様の相互交流の機会を設けることもできず、心苦しい選択となりました。こうした大会開催形態変更の詳細な経緯については昨年度発行の学会誌にも記録を残しておりますので、機会があればご参照ください。

2021年度の第14回大会の準備に際しては、むしろ早い段階からオンライン開催することを決定し、その分、できるだけ対面での大会開催に近い交流を実現できるように準備を進めることにいたしました。対面での開催可能性をもっと模索すべきだったのではというご意見もあろうかと思います。対面で大会を開催するためには開催校を決めなくてはならないわけですが、2020年度に開催校をお願いしていた沖縄国際大学の所在地である沖縄は、とりわけ厳しい感染状況が継続しており、2021年度の開催可否を打診すること自体、不見識の極みという状態でした。全国どこの大学でも、2020年度は自校での教育環境を整えるのに手一杯で、とても大会開催をお願いできる状態ではなかったということもあり、例年の会期は東京オリンピック・パラリンピックの直後にあたるということも考慮して、不確定要素を減らすためにも早期にオンライン開催を決定した次第です。

ここからが本題となります。2021年度の第14回大会は、大会校を定めなかったために、理事を中心とした大会運営委員会が、その名称通りに大会の運営にあたりました。オンライン開催の詳細ですが、開会式・総会・ワークショップ・ラウンドテーブル・シンポジウム等についてはリアルタイムでの配信を中心にし、自由研究発表やラウンドテーブルは、事前に発表用スライド動画を作成していただいたものをオンデマンド配信するという2系統で実施いたしました。リアルタイムで配信したプログラムについては、対面開催に遜色ない会員の相互交流ができただろうと思っています。自由研究発表については、オンデマンド配信にすることでむしろ視聴に関する自由度が増し、対面時には平行セッションになってしまって聴くことができないであろう研究についても聴くことができたと思います。

し、気になった部分は繰り返し再生して理解を深めるという環境も整っていたのだらうと思います。対面開催と同様にテーマによるセッション割を行い、それぞれのセッションには大会運営委員が座長として責任を持ってコメントをする体制を組みました。リアルタイムでの口頭でのやりとりもよいものですが、掲示板を使ったコメントの応酬も、双方がじっくり考えながら書き込むことができ、それを第三者にも公開されるという形にしましたので、オンデマンド配信ならではのメリットも活かせたのではないかと自負していますが、いかがだったでしょうか。

情報交換会は、GatherTown というシステムを利用してオンラインで開催いたしました。Zoom では全員が一つの話題でやりとりをするか、ブレイクアウトルームに分散して、その中で会話することになるのですが、それでは気軽に自由に話しかけることが難しく、本来的な「情報交換」の場としては適さないと考えた結果です。GatherTown では、対面と同様に参加者同士が「近づく」ことで話しかけることができ、離ればその相手との接続は自然と切れていきます。立ち話的に複数の人が参集することもできますし、「制限のある対話スペース」に入ればスペース外の人には聞かれないように話をすることもできます。ご参加いただいた方からは好評を得たと思っていますので、もし今後もオンラインで開催することがあれば今大会の方式を踏襲する可能性があります。今回は二の足を踏んだという方も、次の機会には是非ご参加ください。もちろん対面で開催する場合にも同様に、積極的に交流していただければと思います。

ここからは備忘録を兼ねて、第14回大会の開催実績についてご説明しておきたいと思います。オンライン大会では会場となる大会プラットフォームへのアクセス方法を事前にお知らせする必要があるため、当日参加の受付は行わず、すべて事前申込をお願いいたしました。そのため、例年の対面開催に比べると非会員の方の参加は少なめになりました。個人会員113名、機関会員26名、賛助会員3名、非会員16名の、計158名の方にご参加いただきました。最終的な参加者数は例年のものと遜色なく、遠方の方にとってはむしろ参加しやすい状況であったのかもしれません。課題研究活動委員会企画のシンポジウムは各日一つずつ開催され、それぞれ多いときで90名を超す参加者がリアルタイムで視聴してくださっていました。各シンポジウムの開催内容については、本号掲載の別原稿をお読みいただければ幸いです。自由研究発表はオンデマンドでの動画配信と掲示板での質疑応答を柱として、9月11日10:00～17日15:00の7日間で、五つの分科会に分かれての開催となりました。以下は分科会の名称と、カッコ内は発表件数です。「学士課程教育(5)」、「学習意欲・動機／学習成果・効果測定(6)」、「ジェネリックスキル／授業デザイン(6)」、「協同学習・グループワーク(5)」、「文章表現／高大接続／キャリア教育(5)」。

いずれの分科会においても大会運営委員の理事が座長を務め、他の参加者の方々を含めて発表者との間で有用な意見交換ができたと思います。発表および質疑応答にご参加くださった皆様、ありがとうございました。大会運営の方針として、第14回大会以降は、対面開催・オンライン開催にかかわらず、大会要旨集は紙媒体の冊子体では作成せず、PDFで各自ダウンロードするようお願いすることとなりました。このことにより、開催日ギリギリまでプログラムの修正対応が可能になりますし、結果として皆様のお手元に確定情報を迅速にお届けできることとなりますので、ご理解いただければ幸いです。

本稿の趣旨は第14回大会の報告ですが、2022年度に開催する第15回大会についても

現時点でお伝えできることを述べておきたいと思います。2022年1月8日に開催された理事会において、第15回大会は対面で開催することを前提として準備を進めていくことを決定いたしました。もちろん、新型コロナウイルスの感染拡大状況は短期間で大きく変わりますので、予定通りに対面で開催することを確認することはできません。皆様の健康を最優先として考慮しつつ、学会の学術的交流の機会をできるだけ充実したものにしたいと考えています。当面は対面開催を前提として研究発表申込や参加申込を受け付けていく予定です。もしやむを得ずオンライン開催に切り替える際には、学会HPや会員向けMLでお知らせいたしますので、その旨ご理解くださいますようお願いいたします。対面開催の場合には、多摩大学(東京都)を会場として、2022年9月5日(月)・6日(火)の2日間で開催の予定です。オンライン開催に切り替えた場合でも、基本的な運営方法は第14回大会のものを踏襲しつつ、リアルタイムのプログラムは同様に9月5日・6日に開催する予定です。今から上記日程について、スケジュールの調整をしていただければ嬉しいです。第15回大会でこそ、皆様と直接お目にかかれることを願っておりますし、楽しみにしております。

(初年次教育学会第14回大会運営委員長・初年次教育学会会長)